

ホスピス緩和ケア週間 in Tokushima 2010

ホスピス緩和ケア週間 in Tokushima 2010 平成 22 年 9 月 26 日 (日) ~ 10 月 9 日 (土)

ホスピス徳島がん基金は「ホスピス緩和ケア週間 in Tokushima」を近藤内科病院との共催で行っており、今回で 4 回目になります。2010 年は 9 月 26 日講演会、10 月 2 日前夜祭の野外コンサート、10 月 3 日~9 日まで県下各地でのパネル展を企画開催しました。幸い天候に恵まれて市民の皆様の参加も多数あり盛会のうちに終了致しました。ご協力頂いたボランティアの皆様に感謝致します。

この週間は、10 月 9 日の「世界ホスピス緩和ケアデー (World Hospice & Palliative Care Day)」にあわせて、日本ホスピス緩和ケア協会では 10 月 3 日~9 日を「ホスピス緩和ケア週間」とし、全国のホスピスで様々なイベントが開催されるものです。徳島でもホスピス徳島がん基金が中心になり、今年は日本ホスピス緩和ケア協会と共催して「ホスピス緩和ケア週間 in Tokushima 2010」と題して下記のイベントを開催しました。

平成 22 年 9 月 26 日(日): 第 6 回徳島がん市民セミナー(前半)「講演の部」

6 回目を数える「徳島がん市民セミナー」。今回は「がん患者と医療者の集い」をテーマに、一般市民、医療関係者等を対象に講演会を実施、約 130 名の参加がありました。眞島喜幸さんの講演、患者会、拠点病院の代表によるパネルディスカッションがあり、約 3 時間に及ぶ非常に熱を帯びた議論が展開されました。

セミナー終了後には、日本緩和医療学会のシンボルグッズである「オレンジバルーン」を配布し、多くの方々に「緩和ケア」に触れる機会を提供しました。

(以下、徳島新聞 平成 22 年 10 月 5、6 日掲載分より抜粋)

がん撲滅に向けた、患者支援団体・行政・医療関係者のコラボレーション



NPO 法人パンキャンジャパン理事 眞島 喜幸 さん

(講演要旨)

私は、日本の高校を卒業後、米国の大学に進学し、ロサンゼルスシンクタンクの研究者として健康政策の分析プロジェクトなどに携わってきた。

2004 年、日本にいた妹がすい臓がんで余命 3 ヶ月と宣告された。そのとき初めて、すい臓がんの患者を取り巻くさまざまな問題を知った。当時、日本には抗がん剤の専門医は少なかった。国立がんセンターには患者があふれ、標準的な治療を受けられる病院がどこにあるのかさえも分からなかった。

すい臓がんの生存率は 25 年間、改善されていない。75%の患者は診断から 1 年以内に亡くなっている。乳がんのマンモグラフィーのような早期発見のツールも、有効な治療法も見つかっていない。

こうした状況は米国でも同じで、それを改善するために、すい臓がんの患者やその家族が 10 年前、第一線で活躍する研究者などをアドバイザーに迎えて NPO 法人「パンキャン」を立ち上げた。

活動の目的は、まず第一に「研究促進」だ。米国では、すい臓がんの患者が増えているにもかかわらず、研究予算は、乳がんや胃がんなどに比べると非常に少ない。研究費を豊富に投資しなければ、治療法などは見つからない。予算が少ないために若手研究者がこの分野に入ってこなかった。

パンキャンでは、会員が集めた資金を開発奨励金にして、研究者を支援している。また、米国立がん研究所のすい臓がんに関する研究予算を増額してもらえるよう、ロビー活動も積極的に行っている。さらに、各地ですい臓がんのシンポジウムなども開催。その活動は高く評価されている。

こうした働きもあって、米国では、すい臓がんに関する研究予算は10年間で4倍以上に増えた。現在は、全米で400を超えるがんワクチンの研究が行われている。

パンキャンの活動は、ただお金を集めて研究者に渡すことだけではない。がん研究の進ちょく状況などをチェックする機関にパンキャンのアドバイザーが関与し、どこのどんな研究者がどういった研究をしているのかが分かるシステムをつくった。

米国では現在、すい臓がんだけでなく乳がんなどいろいろな種類のがんで、こうした運動が行われている。

パンキャンジャパンは、パンキャンの日本支部として2006年に設立された。電話やメールによる相談を受け付けたり、勉強会を開いたりして患者や家族を支援しているほか、さまざまな学会で医療関係者を対象に啓発活動を行っている。来年は全国各地ですい臓がんセミナーを開催する予定だ。また、啓発のために「パープルリボン」を作って、早期発見や治療の大切さを訴えている。

今後も、日本のがん医療が少しでも良くなり、がん患者やその家族が安心して治療を受けられるよう活動していく。行政や医療関係者と協力し、強いネットワークを構築しながら、がんを取り巻くさまざまな問題点を掘り起こし、改善していきたい。

平成22年9月26日(日):第6回徳島がん市民セミナー(後半)「シンポジウムの部」

後半はシンポジウムがあり、県内のがん患者、がん診療連携拠点病院の医療者、行政関係者らが、それぞれの体験を基に、県内の現状や課題について意見を交わした。

「徳島大学病院、県立中央病院、徳島赤十字病院、徳島市民病院といった県内のがん診療連携拠点病院が上手に連携をすれば、患者は県外に治療に行かなくても、全国のがん専門病院に負けない治療が受けられるのではないか」

県内のがん患者らでつくる「ガンフレンド」の勢井啓介代表は、自身の体験を踏まえてそう語った。

勢井さんは、7年半ほど前のがんと診断され、地元の病院で手術したが再発。東京の国立がんセンターで再手術した。

県立中央病院の永井雅巳院長によると、現在、県内のがん患者の15%が、より高度な医療を求めて、勢井さんのように県外の専門病院などで治療を受けている。また、徳島と都市だけではなく、県内でも医療格差はあると指摘されている。2007年に施行された「がん対策基本法」は、全国どこでも質の良いがん医療が受けられる環境の整備が、目的の1つだ。

永井院長はそうした現状を説明した上で「格差を解消するため、がんの標準的な治療計画を制定し、どの病院のどの医師が治療しても、同じ方針、同じ治療成績が出せる体制作りが必要だ」と話し、さらに標準化できない部分は「患者一人一人の事情に合わせた“オーダーメイド治療”が可能になるようなシステムを構築したい」と述べた。

また、徳島大学病院がん診療連携センター長は、患者の間に▼総合病院は治療が終わるとすぐに患者を追い出す▼患者が多くて丁寧に見てもらえない▼通院に時間がかかる—といった声があることを指摘。そうした不満を解消するために「1人の患者を、かかりつけ医と専門病院が共同で支えていける仕組みが必要。病院完結型から地域完結型へ、がん医療連携のネットワークをつくりたい」と訴えた。

さらに、徳島市民病院の惣中康秀院長、徳島赤十字病院の片岡善彦院長、木村秀第一外科部長が、それぞれの病院で、がん相談センターを設置したり、患者会を開いたりしている取り組みについて発表した。

しかし、参加者からは、こうした活動が患者らに周知されているとは言い難いとの意見も。

それを受けて、県保健福祉部医療健康総局の石本寛子次長は、相談窓口や在宅治療支援ネットワークの整備などを狙いに、今年8月に開設した「徳島がん対策センター」について説明。各病院のがん医療に関する

情報の一元化を目指して作ったホームページを紹介し「がん患者らの意見を取り入れ、患者が本当に必要としている情報を掲載していきたい」と話した。

このほか、県内の患者会を代表し、乳がん患者らでつくる「ひまわり」の坪田明子代表や、「あけぼの徳島」の瀬尾正代副代表が、自身の体験や会の活動内容について述べ、患者同士や医療機関のネットワークの必要性を訴えた。

最後に、全国のすい臓がん患者らでつくる「NPO 法人パンキャンジャパン」（東京都）理事の眞島喜幸さんがシンポジウムを総括して「がん診療連携拠点病院という名称や、相談センターの存在すら知らない患者は多い。せっかくネットワークができて、市民に浸透しなくては意味がない。人材が足りないなら患者同士で支え合う“ピアサポート”のような体制をつくってもよいのでは」などとアドバイスした。



(以上、徳島新聞 平成22年10月5、6日掲載分より抜粋)

前夜祭 野外コンサート:平成22年10月2日(土) パネル展:平成22年10月2日(土)～9日(土)

野外コンサートは近藤内科病院 [ホスピス徳島] 緩和ケアガーデンにて行われました。天候にも恵まれ、200名を超える参加があり、女声合唱団「鸞」、地元小学生による津田祭り太鼓、徳島交響楽団による演奏を楽しみました。近藤内科病院では同日よりホスピス緩和ケアパネル展を開催し、参加者にホスピス緩和ケアの啓蒙を行いました。パネルは、近藤内科病院 [ホスピス徳島]、徳島大学病院、徳島赤十字病院、県立中央病院、徳島往診クリニック、徳島市医師会、阿南医師会中央病院の共同製作。徳島県庁、ふれあい健康館、各病院に掲示し、施設を利用される方々へホスピス緩和ケアの普及・啓蒙を行いました。

～前夜祭 野外コンサート～



～パネル展～



中村春子様が百歳の長寿を達成されました。



9月21日、グループホームわかばにおいて敬老会を行いました。今年度は特別で、入居者様の最高齢者中村春子様の百歳のお祝いに内閣総理大臣より表彰状が届くということで、朝から紅白の幕を張り、胸には手作りの花を飾り、準備万端整えておりました。職員と紅白玉入れで盛り上がっている最中、市役所の方が訪問され表彰状と金杯が中村様に贈られました。「菅直人って書いてあるわ。すごいなー。」とさらに盛り上がり、中村様は「百歳で？へえー。」と戸惑いながらも、皆に祝福されて嬉しそうな笑顔がみられました。これからもお元気で、大切な娘様方や職員とも仲良く、楽しく過ごされる事を願っています。3月のお誕生日も盛大にお祝いさせていただきますね。

グループホームわかば職員 前田香代子

平成22年度若葉会賞は3名のモンゴルからの医学部留学生に寄与されました。

医科学教育部 医学専攻 博士課程4年次 07年入学	ドルジプルワ オランチミック Dorjpurev Uranchimeg	産科婦人科学分野
栄養生命科学教育部 人間栄養科学専攻 博士後期課程1年次 08年入学	ジャンバルドルジ バヤサガルン JAMBALDORJ BAYASGALAN	代謝栄養学分野
医科学教育部 医学専攻 博士課程3年次 08年入学	ダグワスムベレル ムッフバートル Dagvasumberel Munkhbaatar	循環器内科学分野

～Information～

●健康教室のお知らせ

11月の健康教室

日時 11月18日(木) 14時30分より

講義 「新型院内感染アシネトバクターの予防」

「新型インフルエンザ+季節性インフルエンザの予防接種について」

講師 薬剤師 秋山 啓太郎、院長 近藤 彰

場所 3階カンファレンスルーム

●インフルエンザ予防接種を受けましょう

●がん検診は12月までです。必ず受診しましょう。

●行事予定

2010年

12月30日(木) 餅つき大会 近藤内科病院1階 緩和ケアガーデン
デイサービスセンターわかば にて

※近藤内科病院のお正月休みは12月31日(金)～1月3日(月)です。

2011年

1月4日(火) 年明け診察開始



皆様からのご意見をお待ちしております。

わかば通信に関するご意見・ご感想をお待ちしております。

本広報誌をより良くするために皆様からの率直なご意見をお寄せ下さい。

【近藤内科病院 広報委員会】